

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2009.10.5 No.55 連絡先 042-555-1911



「横田基地の撤去を求める西多摩の会」第2回総会が開催される



10月4日、羽村市コミュニティーセンターで、「横田基地の撤去を求める会」の総会が開催されました。

昨年8月31日「会」発足以降の活動報告では、◎自衛隊航空総隊司令部棟建設のための掘削残土搬出先の日の出の残土処分場を視察、◎防衛省交渉、◎北関東防衛局へ行き、航空総隊司令部の移転中止等を要請し、司令部棟の建築図面の情報開示を求める、◎横田基地内の火災の問題で福生市長に要請行動など行ってきた。もっと地域へアピールをと今年4月から「座り込み行動」を開始したことなどが報告されました。

また今後、「横田基地問題を考える会」や地域の人々とともに「横田基地シンポジウム」を開催していきたいことなどが報告されました。

第2部は吉田敏浩さんの記念講演です。以下、レジュメを要約しました。

戦争の加害者にも被害者にもならないために (写真提供：横田基地の撤去を求める会)

1. 戦争の本質は流血。戦場では、いのちを奪うことが目的とされ、正当化される。
ビルマ（ミャンマー）北部を訪れ、内戦の渦中で人びとが死や苦難を強いられている現実にあふれた。戦争の恐ろしさ、惨たらしさを知った。
1. ビルマ北部のカチン州で語り継がれる「日本戦争」（カチン語で「ジャパン・マジヤン」）の記憶。フィリピンでは、「キャプテン・ヨシダ」の部隊が村人を殺したと聞かされた。日本によるアジアでの侵略戦争の歴史の爪痕。それらの経験を通じて、再び日本の兵士が日本人が他国の人びとを殺傷し、苦しめる事態にはいけないと痛感した。かつて日本の兵士もまた戦死だけでなく、飢餓や病で悲惨な死を遂げた。日本でも多くの人々が空襲、原爆、沖縄戦などの被害を受けた。
3. 憲法9条を変えて「戦争のできる国」にしようとする動きがある。改憲して自衛隊を軍隊と位置づけ、交戦権と集団的自衛権の行使（解釈改憲という抜け道もある）を認めたら、米軍とともに海外で戦争をすることになりかねない。実際、日米軍事一体化が進んでいる。
4. 在日米軍基地はイラク戦争などの出撃拠点であり、後方基地でもある。横須賀や厚木、三沢、横田、嘉手納などの基地から米軍がイラクやアフガニスタンに出撃している。日本は、米国の戦争に加担し、米軍によって殺傷されるイラクの人びとに対して間接的な加害者の立場に立っている。
5. 米軍とともに地球的規模で戦える態勢に向けて、自衛隊の装備も輸送力・戦闘能力・機動力・海外展開能力を高めている。自衛隊は、イラクなどで戦闘してきた米軍と共同訓練・演習を積み重ねている。2007年度の日米共同訓練・演習は74回、延べ530日に上る。
6. このような動きが、民主党中心の政権でどうに変わるのか。注意深く見てゆかなければならない。
7. 事実上の戦地派遣だったイラク派遣自衛隊員の「ストレスに関する調査」等が秘密にされている。
8. 為政者は、戦争によって死傷者が出ると、「やむをえない犠牲」（「necessary cost」）という表現を使って戦争を正当化しようとする。「命を奪うこともやむをえない」という血塗られた論理である。
9. 日本が「海外派兵をして戦争のできる国」に変わってしまうのか、それを食い止めることができるのかどうか。大事なことは、戦争の加害者になることに心の痛みを覚えるかどうかではないか。

横田基地からもイラクやクウェートなどに派遣されている (No. 55 裏面)

吉田敏浩さんの講演レジュメでも、「在日米軍基地はイラク戦争などの出撃拠点であり、後方基地でもある。」とありますが、戦闘機が常駐していない横田からも戦地へ行っています。

『軍事研究』2009年10月号には、軍事ジャーナリストの福好昌治氏の「対テロ戦争を戦う在日アメリカ空軍」という論文が載っています。一部引用します。

「横田に配備されている部隊も、イラクなどに派遣されている。たとえば、2007年には、第374兵站即応隊、第374施設隊、第374憲兵隊、第36空輸飛行隊、第374整備軍などから選ばれた隊員980人が、イラクやクウェートなどに派遣された。

2008年には、第374憲兵隊の隊員9人が6か月間、イラクのバクダッドに派遣され、交通統制やパトロールに従事した。2009年2月には、イラクで空輸支援に従事していた第36空輸飛行隊と第374整備軍の隊員40人が、4か月のローテーションを終えて、横田に帰還した。

派遣先は中東に限らない。第459空輸飛行隊のC-12J輸送機(機数は不明)、パイロット13人、整備員4人は、2007年9月～12月、「不朽の自由作戦—ヒィリピン(OEF-P)」を支援するために、ヒィリピン南部のホロ島などへ派遣され、80回の任務飛行をこなした。その間に運んだ物資は9万ポンドで、人員は900人(特殊部隊を含む)だった。(『星条旗新聞』2008年1月3日号)」(以上は、横田基地に関する一部を引用)

「以上のように、在日米空軍も頻繁に海外に派遣されており、活動範囲は遠く中東にまで広がっている。在日米空軍も対テロ戦争において、重要な役割を果たしているのだ。」

このように、私たちの身近にある横田基地は、戦地と直結しているのです。

日米軍事同盟打破・基地撤去2009年日本平和大会 in 神奈川 (お知らせ)

2009年日本平和大会実行委員会

1、基本テーマ(一次案) *情勢の変化等で改訂することがあります。

—みんなでつくろう! 憲法輝く非核・平和の日本—

「海外派兵反対! 守りいかそう 憲法9条」

「原子力空母・核持ち込みノー! ゆるすな 米軍基地強化、基地被害」

「安保改定から50年 軍事同盟なくして平和友好の日米関係を」

☆国際シンポジウムの基本テーマ案 *情勢や参加メンバーによって改訂することがあります。

「いま、私たちの運動が世界を変える — 広がる反基地、脱軍事同盟、非核・平和の流れ」

2、主な日程

■12月10日(木)

13:00～18:00 国際シンポジウム 場所/横浜市技能文化会館・横浜市中区

18:30～20:00 海外代表歓迎レセプション 場所/同

■12月11日(金)

9:30～12:30 国際シンポジウム 場所/横浜市技能文化会館・横浜市中区

19:30～21:30 開会総会 場所/関内ホール・横浜市中区

■12月12日(土)

10:00～16:00 分科会、シンポジウム 場所/横浜市内を中心に

動く分科会 座間・相模原コース、横須賀基地コース、厚木基地コース、ノースドック・池子コース
定員/横須賀基地コースバス2台、他はバス1台(定員は45人の見込み)

17:00～18:30(予定) 青年集会 場所/関内ホール・横浜市中区

■12月13日(日) 午前 閉会総会 場所/横須賀市文化会館